

カーネーション幼植物の簡易増殖におよぼす培地と培養条件の影響

堀川法隆

茎頂培養によって得られた幼植物を無菌的にさし木培養することでカーネーションの無病苗の大量増殖が可能か否かについて検討した。実験には本県における代表的な 3 品種を供試し,さし木後の発根と側枝の萌芽・伸長におよぼす培地組成,さし穂の大きさと採取部位の影響,ならびに培養中の人工照明条件の影響について検討した。

1. 側枝の萌芽と伸長と発根は Murashige&Skoog 培地にシヨ糖 20~30g/ℓ,寒天 4~6g/ℓ を加えた培地で最も良かった。植物生長調節物質の添加はさし木基部をカルス化し,異常分枝の発生と芽条変異個体を発現させる危険が予測されることから不適當であることがわかった。
2. 幼植物から採取するさし穂の大きさは側枝の萌芽と伸長に影響せず,幼植物の基部からのさし穂が先端部からのそれより側枝の分枝は良好であった。
3. さし木後における培養期間中は 1,500Lux 以上の照度で 24 時間照明が幼植物の側枝の伸長に最も良かった。